

プラネタリーヘルス

人間活動と自然の営み

西洋医学の基盤となっているヒポクラテスは紀元前5世紀の「空気、水、場所について」という教科書で医師に対して、環境のありとあらゆることに関心を向けるよう助言しています。プラネタリーヘルスという言葉は40年前頃から使われ、地球規模の環境倫理が人間の健康と生産的に出会う枠組みを指しています。

安全と公平

私たちの消費活動は、私たちではなく、遠く離れた人たち、将来の世代の人たちに影響を及ぼします。恩恵を被る者と報いを受ける者との間にみられる差はあまりに不公平です。気候、生物圏、淡水、栄養素、大気汚染物質の安全かつ公平な限界が数値化されています (Rockström et al. 2023)。気候変動の場合、気温上昇を産業革命以前の水準から1.5°Cに抑えることが求められていますが、著者らは地域差を考慮すると、数百万人が重大な危害にさらされる事態を避けるには、気候限界を1.0°C以内の気温上昇と定めるべきと提唱しています。公平の観点を組み入れることで、より厳しい限界の設定がなされています。

食肉需要と生物圏

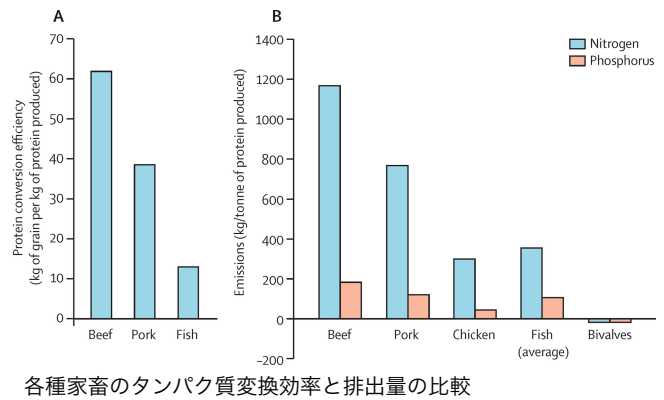
世界の農作物の多くは家畜の餌として利用されています。農作物を生産するため、肥料が使用され窒素とリンが排出されています。家畜の種類によって窒素とリンの排出量には大きな差があります (右上図 Whitmee et al. 2015)。窒素とリンは陸上と水界に富栄養化をもたらし、生物圏に劇的な影響を及ぼします。富栄養化したミシシッピ川が注ぐメキシコ湾の、生物の多くが生存できない広大なデッドゾーンが知られています。牛肉や豚肉から鶏肉や魚に切り替えることで健康と環境の双方にメリットがあります。近年、穏やかな菜食主義者は増加してきています。

自然環境とメンタルヘルス

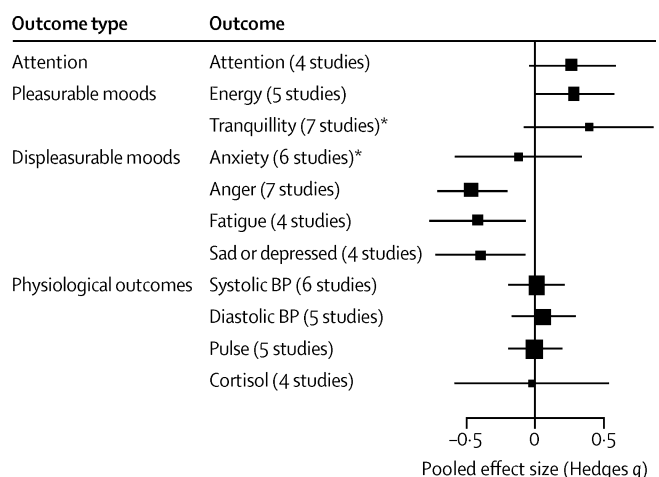
自然環境の変化は、慣れ親しんだ土地が消えていく喪失感 (ソラスタルジア)、気候変動などによる深い悲嘆 (エコロジカルグリーフ)、進まない気候変動対策などによる無力状態 (心的外傷前ストレス障害) などを生じさせています。環境が混沌とした世界に子どもを産みたくない意思表示するバーストライキ、政府の有効な対策の欠如に抗議するエクスティンクション・レベリオンなどの市民運動も広がっています。都市に生活していると自然とのふれあいが減ります。自然に触れることで、生理指標の変化はないものの、気分を改善することがわかっています (右下図 Whitmee et al. 2015)。

ビジネスモデルイノベーション

人間が引き起こす自然環境の変化のほとんどは、さまざまな規模の経済活動の結果です。健康の損失が数値化されるようになり、損失と利益の関係は変わってきています。環境に依存するビジネスモデルの収益性は低下し、新しいテクノロジーによって、プラネタリーヘルスに真正面から取り組むビジネスモデルが生まれてきています。ヒポクラテスの「害をなすな」という誓いは、プラネタリーヘルスの安全と公平の枠組みにも息づいていると思います。



各種家畜のタンパク質変換効率と排出量の比較



Pooled effect size (Hedges g)

自然環境と人工環境への曝露による心理的・感情的影響

(2024/6/17)